

どこが違う？ マエストロ・ムティやヨー・ヨー・マ 指揮者・久保田昌一氏が語るオーケストラの醍醐味

マエストロ・ムティ

世界40カ国・225人が参加した第一回シカゴ交響楽団ゲオルグ・ショルティ国際指揮者コンクールで見事に1位を獲得した若き指揮者・久保田昌一氏の講演会が6月21日、シャンパーゲのプレミア・センターで開催された。同講演会はJCCC開発・文化・サービス部会の主催で行われた。

久保田氏は第1位受賞によりシカゴ交響楽団常任指揮者のリカルド・ムティ氏から指揮研修員に任命され、2011年4月から今年6月までの2年余り、マエストロ・ムティの元で研修員を務めた。

講演会で久保田氏は「指揮者についてどんなイメージを持っていますか？」と質問を投げかけ、参加者の興味をグッと惹きつけた。

参加者からは、「一番偉い人」「指揮者によって演奏が変わるのはなぜ？」「背中しか見えないが指揮者の表情は？」などの質問が上がった。

指揮者は一番偉いのか？

久保田氏は「偉そうに見えるが、指示通りに演奏するか否かの権限はオーケストラの奏者にある」と話す。

金管楽器は楽器の性質上、木管楽器よりも大きな音が出る。全体のバランスを考えて、金管奏者に「もう少し小さい音で」と指示を出すことは結構ある。99%はリハーサルで音を落としてくれるが、本番で指示通りに演奏してくれないかどうか、確約はない。

「指揮者がこの様な音楽を作りたいと説明しても実現には非常に難しく、プロアマチュアに関係なく、それが出来るのは意外と少ない」と久保田氏は語る。

そこで問題となるのが、指揮者とオーケストラ・メンバーとの信頼関係だ。



シャンパーゲで講演する久保田昌一氏

リカルド・ムティが指揮を執るからコンサートに行こうと思う人は多い。なぜマエストロ・ムティが作る音楽は素晴らしいのか。

久保田氏によると、ムティの仕事は音楽ディレクターだけでなく、支援者との会談や記者会見など多岐に亘り、そのスケジュールは分刻みだという。まして、コンサートが終わるのは10時半頃。早くても夕食を取るのには11時で、就寝は午前1時から2時頃になる。だから、翌朝10時から始まるリハーサルに出るのはかなりきつい。昼休みの30分間に仮眠を取り、エネルギーを補充したいと思うのが自然だ。

しかし、ムティはその過密なスケジュールの中で昼食後の休憩時間を使い、写真を見ながら133人のオーケストラ・メンバーの顔と名前をすべて覚えた。廊下でメンバーと顔を合わせれば、ムティは名前を呼んで挨拶をする。すると、多忙なスケジュールを知っているメンバーは名前を呼んでくれたことに感動し、「この人のためだったら最上の演奏をしよう」という空気が生まれる。

久保田氏は「マエストロの音楽的な素晴らしい才能と、オーケストラの技量、この人のためという『プラスの空気』の3つが合わさった時に、初めて言葉では言い表せない素晴らしいハーモニーが生まれる。一つ一つの積み重ねで信頼関係を作ることがどれだけ重要か、この研修で一番感銘を受けた」と語った。

ヨー・ヨー・マ

チェリスト、ヨー・ヨー・マもプラスの空気を作る素晴らしいポジティブ・スピリットの持ち主だと久保田氏は話す。

ヨー・ヨー・マはシカゴ交響楽団のクリエイティブ・イベントのコンサルタントを務めている。常に笑いを絶やさない人で、体から滲み出てくる笑顔だという。久保田氏は「悩みがあっても、あれだけ笑われると忘れる。それ程ポジティブなエネルギーを持っている人」と表現する。

ヨー・ヨー・マはクリエイティブ・コンサルタントだから、突拍子もないこと言い出す。ある日、シカゴ市内のショッピングモールでシビック・オーケストラが演奏するという案を持ち出した。消防法は？許可は？と難色を示す周辺に、ヨー・ヨー・マは「絶対に出来るから許可を取ってみようよ。やってみようよ」と笑顔で繰り返す。その企画は遂に5月中旬に実現した。久保田氏は「あれだけ



オーケストラを指揮する久保田昌一氏 (写真提供：久保田昌一氏)

けポジティブに言われると、じゃあ調べてみましょうと、周辺が動き出す。モールの中にはオーケストラの音を聞いたことがない人もいたはず。音楽でコミュニケーションを取りたい、音楽ホールとの境を取り除いて演奏したいという思いがあったからこそ実現した。ポジティブ・スピリットは何にもまさるということを知りました」と語る。

そして、「マエストロ・ムティもヨー・ヨー・マも世界の五指に入る音楽家。信頼関係を作る、ポジティブ・スピリットを作る、この2つが非常に重要であることは、この2年間で学んだことの一つです」と語った。

指揮者・久保田昌一

225人の中から1位に選ばれた久保田昌一とは、どんな指揮者なのか。

スコアは全部読む。各楽器の楽譜をまず横に読み、次に同じパートを演奏する楽器をグループ化する。そしてスコアを縦に読む。非常に時間がかかる仕事だが、全部読む。

気を付けることは、例えばフルート、トランペット、バイオリンが同じパートを演奏するのであれば、トランペットが大きくなることを頭に入れておく。実際に演奏してみて本当にトランペットが大きく聞こえるのか、予測と実際の演奏を比較して調整するのが指揮者の仕事だという。

楽器の性格上、4つの金管楽器、トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバの音は大きい。しかし、「小さくして」と言うのは禁句。言われた演奏者は決して良い気持ちはしない。

だから、同じ結果が出る言い方を探ることが重要となる。「フルートとバイオリンが同じパートを演奏していますので、出来るだけ聞いて下さい」としくは「良い音で演奏して下さい」と言えば、金管の音は小さくなる。演奏者を憤慨させず、プラスの空気が生まれるようにする「言い方」が非常に重要だという。

指揮者の表情

客席に背を向けている指揮者がどんな事をしているのか、観客には興味があるところだ。

久保田氏によると、胸の所で左手を使い、もっと大きく、小さく、早く、遅くなどの指示を出しているという。

顔の表情は演奏曲に殉じている。悲しい曲に明るい表情が合うはずはない。

果たして、大きく口を開けたり、大袈裟なアクションをするようなパフォーマンスが必要なのか？

口を「へ」の字に結んでいることで有名なマエストロ・ムティが公開リハーサルで、口を開けても閉じても演奏が変わらないことを実証したことがあるという。ムティは99%、口を閉じている。口を開けることによって聴力が低下するからだ。これは自分でやってみると納得できる。だから無愛想だと習われたも、口を開けるパフォーマンスよりも口を閉じている方が優先されて当然という事になる。

大袈裟な振りのパフォーマンスは観客を楽しませるために必要なのか？

久保田氏は「それはコンセプトが違う」という。指揮者の手の動きは、作りたいと思う音楽を身体で表現したらどうなるか、それを手で表すにはどうしたら良いかという考えに沿って出て来る。アクションが派手なパフォーマンスは格好いのかも知れないが、音楽には関係していないと語った。

緊張を乗り越えるには？

本番ではどうしても緊張する。いつも通りでない時に平常心を保つは無理。だから上手く付き合っていくしかない。

本番前には心臓がバクバクしてくる。それを沈めるよりも気を高めて心と身体のギャップを無くす。運動選手がウォーミングアップをするように、心拍数を上げて気持ちを高める。

ゲオルグ・ショルティ・コンクールの時、最終審査に残ったのは

225人中4人だけ。マエストロ・ムティの前で指揮をするという緊張感が尋常でないことは想像できる。

久保田氏はこの時、「オレはやるんだ！」という気持ちで、楽屋をグルグルと歩き回った。そして、「やるぞ！」という気持ちを高めたという。「気持ちを上げてみる。すると心と身体のギャップがなく、結構上手く行く。試してみてください」と語った。

久保田昌一プロフィール

久保田氏は幼稚園の時、ピアノが上手で美人の先生に憧れてピアノを習い始めた。しかし、ピアノは孤独だった。小学3年の時、武蔵野音楽大学付属音楽教室に通っていた。その教室で管楽器を習っている生徒達を羨ましく思った。彼らには合奏の時間があり、一緒に演奏する楽しさがあった。みんなで一つのものを作り上げる魅力に惹かれたのが、指揮者となる切っ掛けだった。

また、中学の頃、ベルリン・フィルの当時の音楽監督クラウディオ・アバドのインタビューをTVで見た。「オーケストラは大きな室内楽。みんなが聞き合っている方向性を出さなければ共演演奏することが出来る」という言葉を聞いて「まさにこれだ！」と思ったと語る。

久保田氏は2005年ジュリアード音楽院・指揮修士課程、2007年にはマネス音楽院にて指揮専門学位を修了。在学中S&Pスタラナー・特待生、NTミラニ特待生、マリー・パウアー賞、及びブルーノ・ワルター賞を受賞。

これまでメルボルン交響楽団、デトロイトシビック交響楽団、フィラデルフィアユース管弦楽団、ソフィア管弦楽団(ブルガリア)、アスペン音楽祭アカデミーオーケストラ、ORTトスカナ管弦楽団(イタリア)などを指揮。

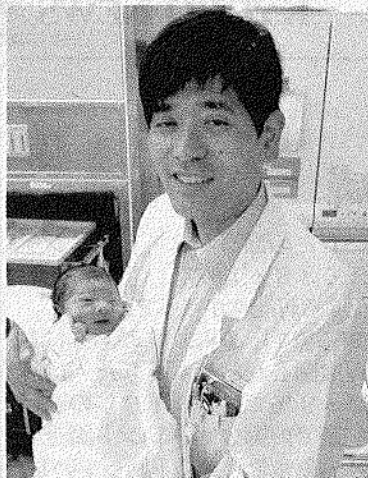
医療新世紀 (共同)

漢方薬併用で相乗効果 免疫のバランス調整

「伝統医学にも、まだまだ可能性がある」。大阪大医学部の萩原圭祐准教授(44)＝漢方医学寄付講座＝は、漢方薬の新たな使い方を探っている。関節リウマチやアトピー性皮膚炎、潰瘍性大腸炎といった治療が難しい炎症性疾患でも、「現代薬」(現代医療の医薬品)と組み合わせて効果を発揮する場合があることを見いだした。

くする漢方薬「半夏瀉心湯」と「六君子湯」を処方したところ、抗体医薬の効果が戻った。

女性はその後、結婚。病状が落ち着いたところで、抗リウマチ薬を胎児に影響がないものに変更して不妊治療を受け、妊娠することができた。だが、つわりが激しく食事を全く取れなくなり、入院を余儀なくされた。



指揮者・久保田昌一氏が 語るオーケストラの醍醐味

▶ 19面より

客演指導でヒュー・ウルフ、ジェームズ・コンロン、レナード・スラトキン、マリン・オルソップ、クルト・マズアに師事する。夏季は2004年から4年間イタリアのキジアナ音楽院でジャンルイジ・ジェルメッティの下で学び、名誉ディプロマ及びエマ・コンテスタビレ特別賞を受賞。2008年度はデイヴィッド・ジンマン率いるコロラド州・アスペン音楽祭の指揮科に招待され、ヴェルディ

の椿姫や数々のオーケストラコンサートを指揮する。又同年、文化庁平成20年度新進芸術家海外留学制度を受賞。

拠点を置くニューヨークでは、2010年度から95年の歴史を誇る92Yオーケストラの音楽監督を務めている

2011年2月、第1回シカゴ交響楽団ゲオルグ・ショルティ国際指揮者コンクールにて優勝。4月には同音楽監督リカルド・ムティからシカゴ響指揮研修員に任命された。